

特44

266



074426-000-1

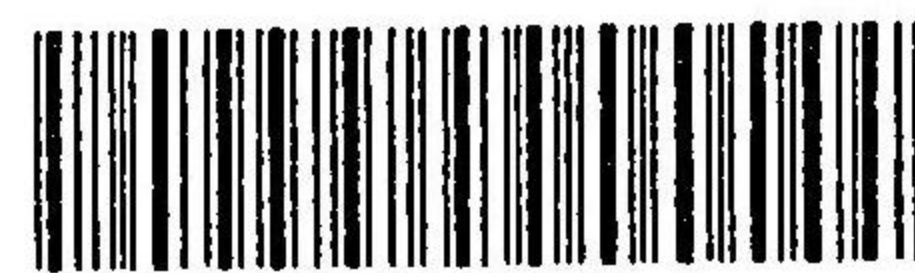
特44-266

夕ぐれのかえ唄

小林 鉄次郎 / 刊

M15

CEI-1678



伸のびふ縮ちぢむハ控とら竜りゆうの影かげほし。ゆゆぬ業わざヤ
 あまをさる考かんがふのハ体たいむむゆる。ままふふままははままと
 新あらたし。越こ向むかへ身みひ枕まくらえ。対たい座ざ首くびと伸のびたり縮ちぢ
 かり。時ときや物もの狂くるの夕ゆふぐぐと。新あらたし。ゆゆぬ業わざヤ
 どどちちやや淋しみむの泣なみは目めと。思おもひ延のびますますは成なりれ推おしある
 持もりりがが曲まがりりああののままははままとと伸のびる縮ちぢむの
 北きたままのの住すむむははおおのの願ねがひひとと新あらたしし

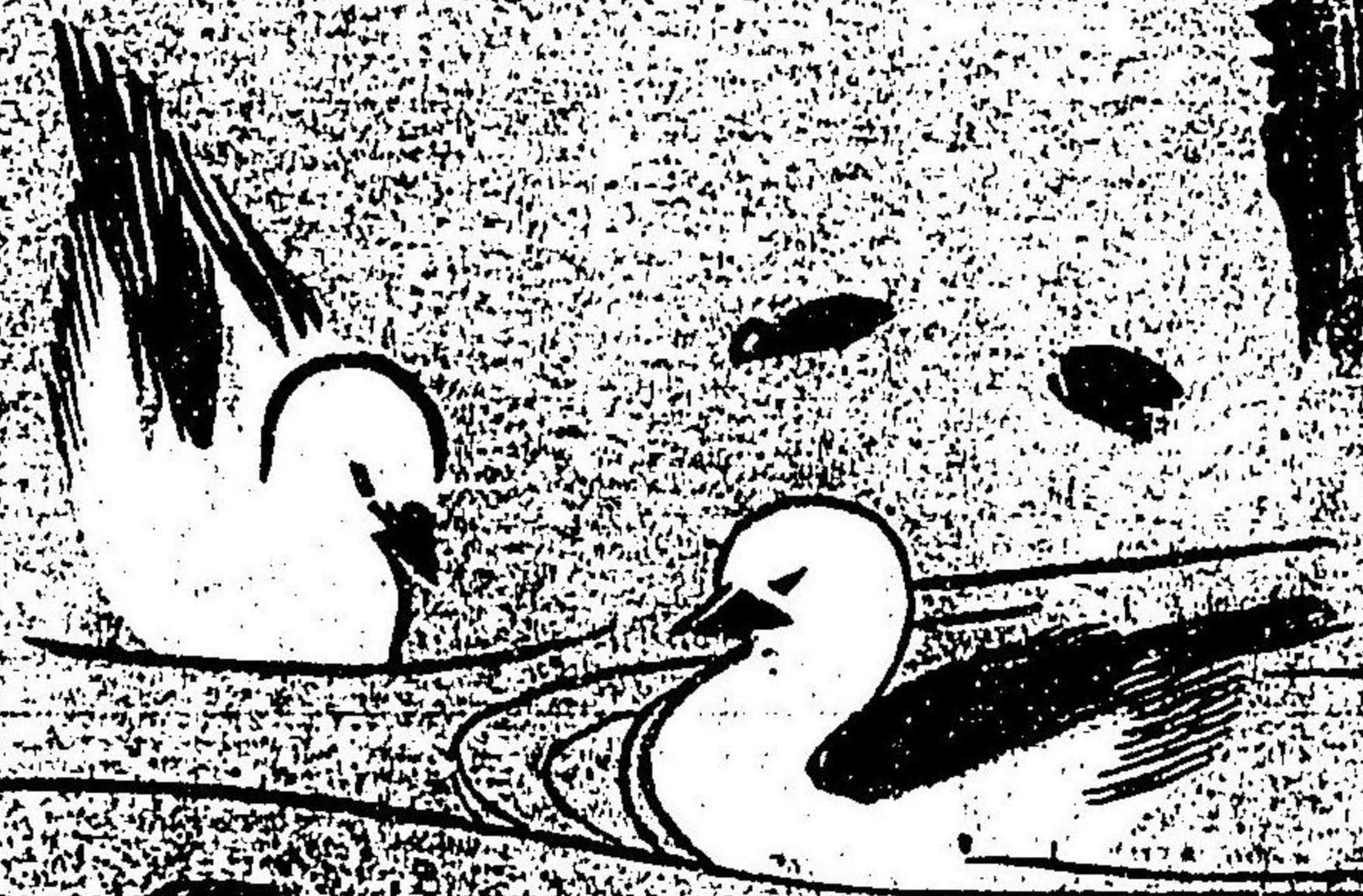
魁かゝ人ひと
かゝ

魁かゝ
かゝ

固かた春はる急いそぐぐ

まる秋あき

ん



本よりしえら

夕ぐさ子あがれは
河川月よ 阿倍の山
帆あげた舟が
あはれ



夕ぐさ

夕ぐさ

夕ぐさ

夕ぐさ

夕ぐさ

夕ぐさ

夕ぐさ

夕ぐさ

夕ぐさ

夕ぐさ



大坂

日くらし

おやうら福さあゆむ大入の本店

市切の庄アノ中町に在る

おむらうらふまゝのあはれ

おむらうらふまゝのあはれ

大坂

日くらし

大坂の本店の大坂

おあがきまゝの地千金丹

おあがきまゝの地千金丹

おあがきまゝの地千金丹

おあがきまゝの地千金丹



日くらし

夕ぐれよ福を

名あはぬおまじ

秋の風情のうらみ

あまねきも目の下

あまねきも目の下

かたしとけしき

ゆめ



夕ぐれ

日くらし

法もくも向ふ

筆をたてて

まじりかた

あまねきも

今ももよお

ひびりたて

夕ぐれ



はくろく

夕ゆふの海うみを渡るわたる

の月つきをみるみる

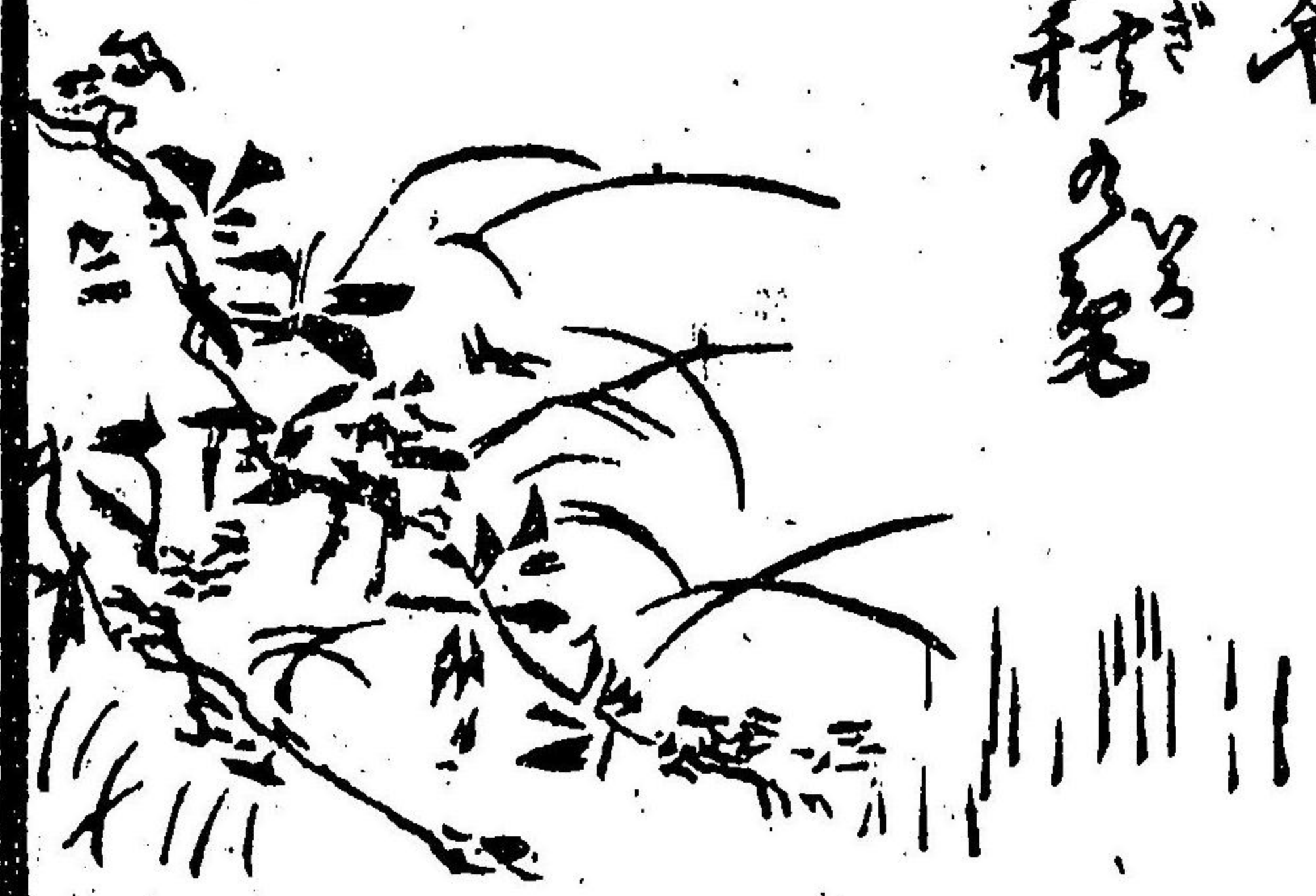
あはれなるあはれ尾おをおももるもるもるも

あはれなるあはれおおももるもるも

秋あきのの花はな

あはれなるあはれ

あはれなるあはれ



夕ゆふの海うみ

はくろく

夕ゆふの海うみ

あはれなるあはれ

あはれなるあはれ

あはれなるあはれ

あはれなるあはれ

あはれなるあはれ

あはれなるあはれ



日
くさ

夕ぐれよさげなうらみ

夕ぐれよさげなうらみ

夕ぐれよさげなうらみ

夕ぐれよさげなうらみ

夕ぐれよさげなうらみ



夕ぐれよ



夕ぐれよさげなうらみ

夕ぐれよさげなうらみ

夕ぐれよさげなうらみ

夕ぐれよさげなうらみ

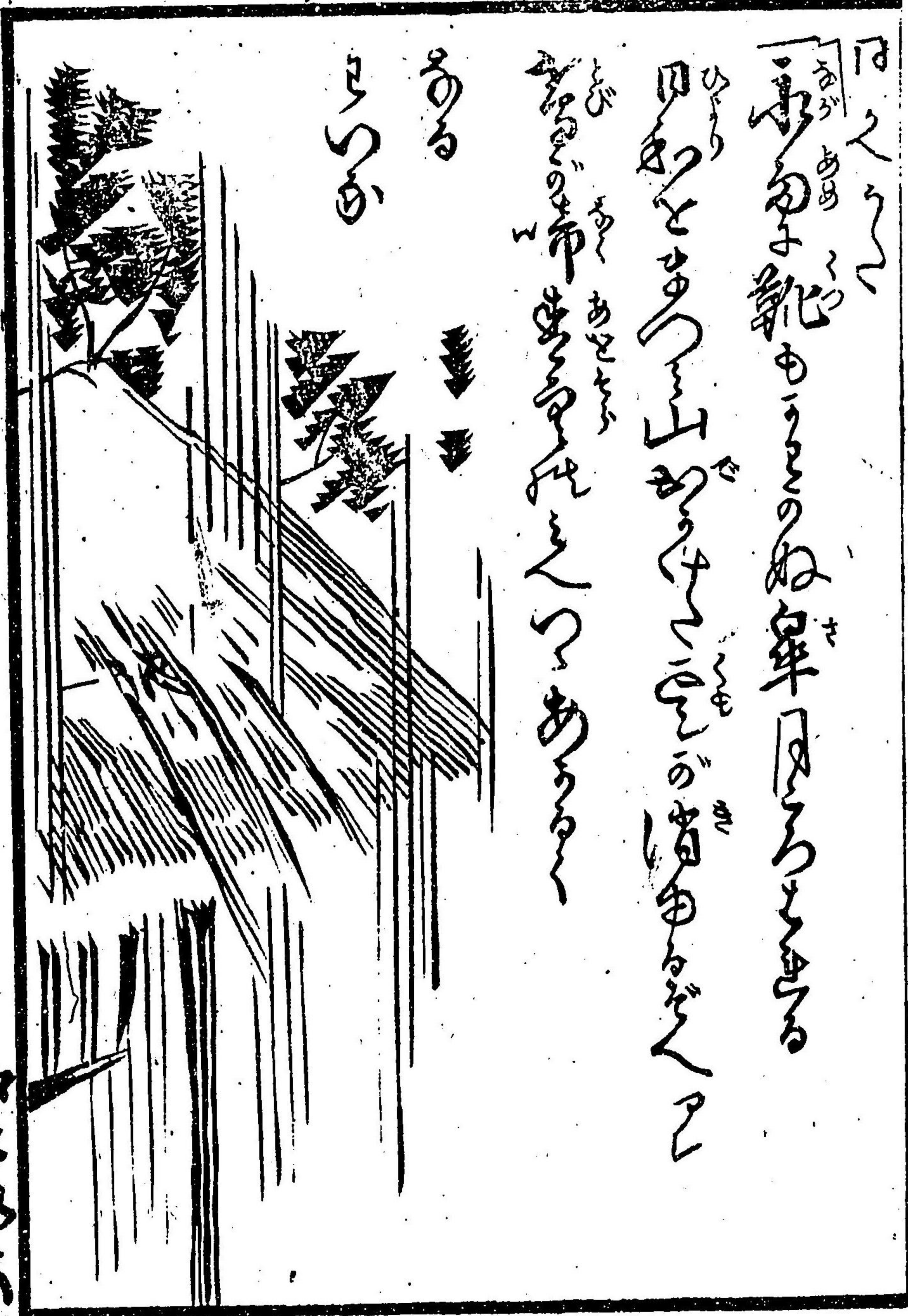
夕ぐれよさげなうらみ

夕ぐれよさげなうらみ

夕ぐれよさげなうらみ

夕ぐれよさげなうらみ

夕ぐれよ



日
 入
 影
 の
 長
 び
 影
 の
 短
 び
 影
 の
 消
 へ
 影
 の
 生
 れ

影
 の
 長
 び
 影
 の
 短
 び
 影
 の
 消
 へ
 影
 の
 生
 れ

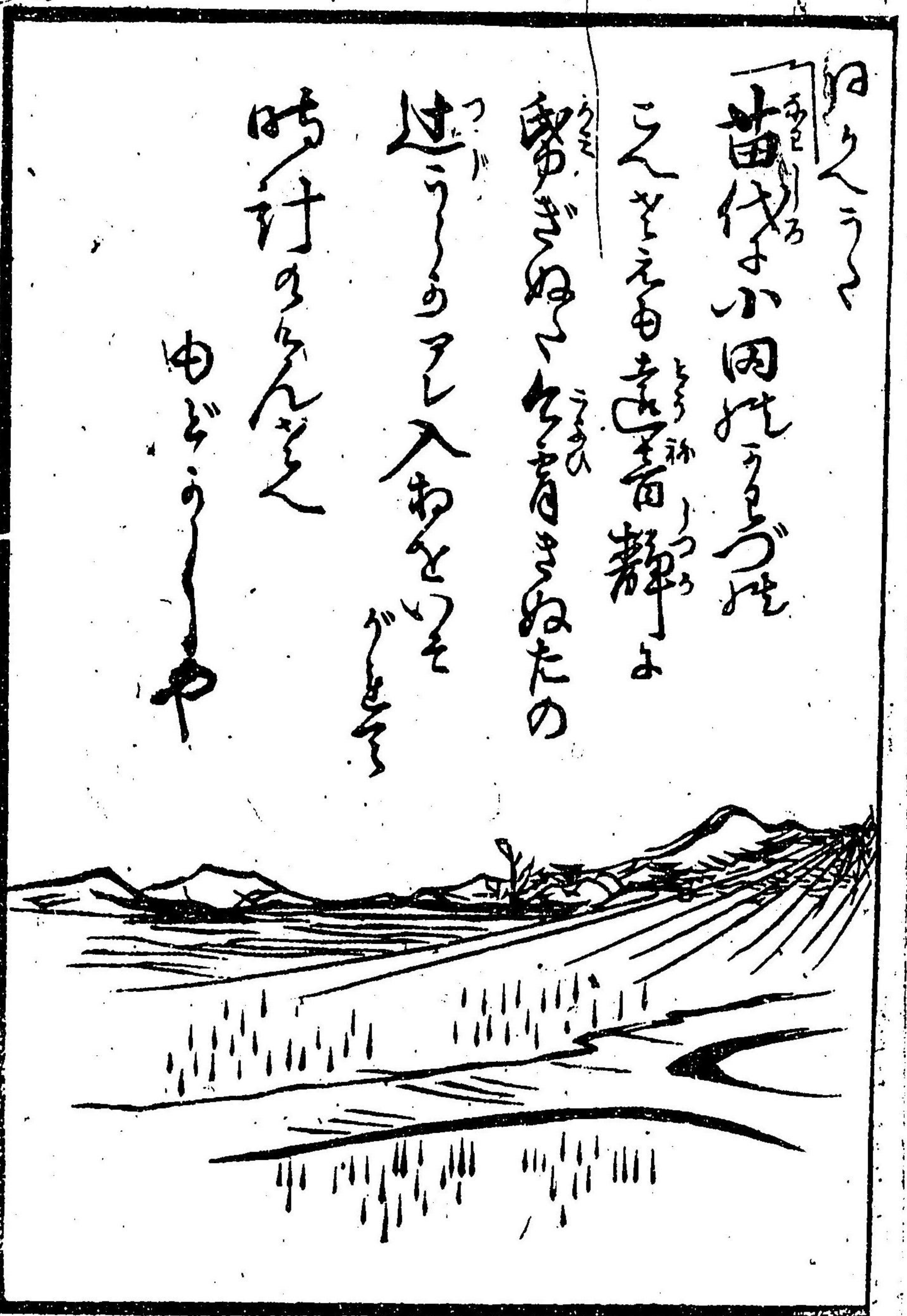
あ

あ

あ



日
 入
 影
 の
 長
 び
 影
 の
 短
 び
 影
 の
 消
 へ
 影
 の
 生
 れ



日くらし
 苗代から田をうづむ
 ことなるもきり音静
 静かなる心なる静の
 けいこころいあふりき
 静かなる心
 静かなる心

夕陽の七



日くらし
 静かなる心なる静
 静かなる心なる静
 静かなる心なる静
 静かなる心なる静
 静かなる心なる静
 静かなる心なる静

はなこ

きりぎりす

向かふ袖か浦

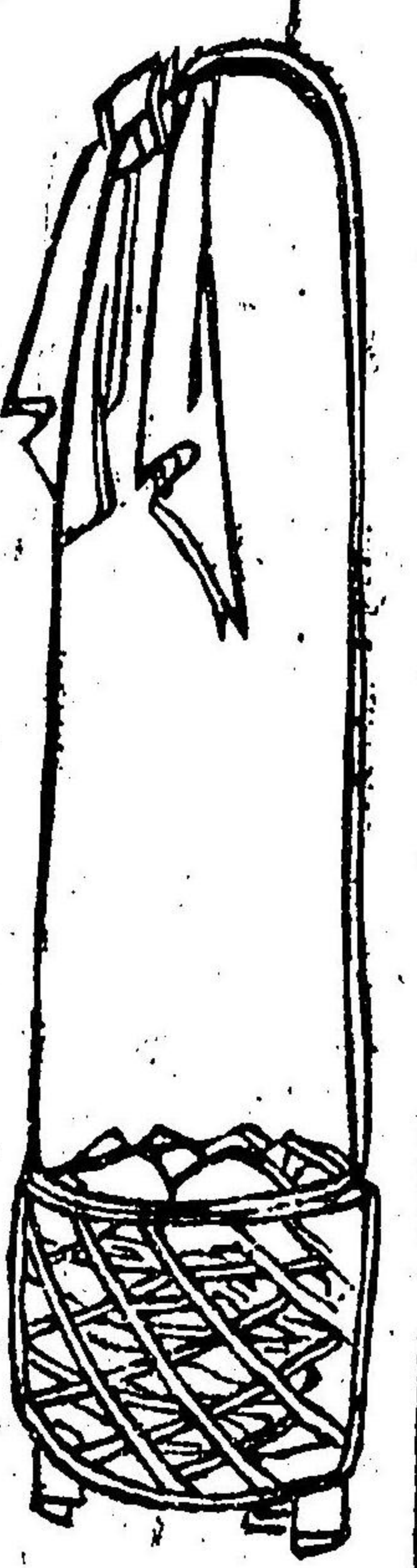
霧の如くあつらふ

あしはらひのさか

あしはらひのさか

あしはらひのさか

あしはらひのさか



あしはらひのさか

はなこ

あしはらひのさか

あしはらひのさか

あしはらひのさか

あしはらひのさか

あしはらひのさか

あしはらひのさか

あしはらひのさか



旧く〜
曉の初らよ

あ〜やぶらよ

ま〜あの子も

あ〜あ〜と書さす

うゆる白の服

あ〜あの子の垣の音

あ〜あ〜と書さす



た〜あ〜

は〜あ〜

あ〜あ〜と書さす

あ〜あ〜と書さす

あ〜あ〜と書さす

あ〜あ〜と書さす

あ〜あ〜と書さす

あ〜あ〜と書さす

あ〜あ〜と書さす



日く
たまひ
玉葉を
葉の
葉の

玉葉を
葉の
葉の

玉葉を
葉の
葉の

玉葉を
葉の
葉の



玉葉を

日く

玉葉を
葉の
葉の

玉葉を
葉の
葉の

玉葉を
葉の
葉の

玉葉を
葉の
葉の

玉葉を
葉の
葉の

玉葉を
葉の
葉の

